

式 辞

暑かった夏が過ぎ、虫の声に秋を感じる今日の佳き日に、令和元年度 大阪府立桃谷高等学校 定時制の課程 多部制単位制Ⅲ部、前期卒業式を挙りましたところ、公私ご多用にも関わりませず、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、錦上花を添えていただきました。厚く、お礼申し上げます。

また、多数の保護者やご家族、関係の皆様のご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりましても心からの慶びであります。誠にありがとうございます。

今、卒業証書を授与しました十二名のみなさん、保護者やご家族の皆様、本日はおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生のみなさん、みなさんは本校に入学した時のことを覚えていますか。「一度他の高校に入学したもののうまくいかず、思いを新たに本校で学ぼうとした人」「これまで勉強したくてもできず、ようやく勉強できるようになった人」など、年齢や入学までの経験は様々でした。しかし、「よし、桃谷高校で勉強しよう」と決意された人ばかりでした。それでも、期待と不安が入り混じっていたことだと思えます。

入学から卒業に至るまで、色んな出来事や思いがあったことだと思えます。卒業に向けてまっしぐらに頑張った人もいるでしょう。自分の弱さや置かれている環境に負けそうになり、学校を辞めたいという気持ちになった人もいないでしょうか。それでもみなさんは、入学したときの気持ち「高校を卒業したい」という思いを大切にし、今日まで努力を重ねてきました。本校で学んだ期間が半年の人から五年の人まで、本校での経験も様々です。そして今日、卒業の日を迎えることができました。

みなさんの並々ならぬ努力と熱意に深く敬意を表します。先ほど、大阪府教育委員会と全国高等学校定時制通信制教育振興会の表彰を授与しました。これは、三人の本校での頑張りとその成果をたたえ、今後の活躍を期待する賞です。しかし私は、ここにいる十二名全てに対して、桃谷高校Ⅲ部での頑なりに、表彰状を送りたい気持ちでいっぱいです。

先日、みなさんの書いた卒業文集を読みました。今の気持ちが本当に素直に表れていました。みなさんがどんな思いで本校に入学し、どんな思いで高校生活を送ってきたのか、そして卒業を迎える今どんな気持ちでいるのかが、ひしひしと伝わってきました。

「人見知りで口下手だった僕は、友達ができるか仲良くなれるか心配でした。・・・本音で言うと今は卒業したくありません。今までお世話になった先生方、ほんとにご面倒をおかけしました。立派な大人になります。」「最初のころは緊張と不安でいっぱいでした。今は桃谷高校で学ぶことができてよかったなと思います。」「今振り返ってみると、たくさんの出会い、友達、思い出などきりがなほどの思いがあり、この日々がなくなると思うとすこし寂しく感じます。・・・なんでもない毎日が学校に行くだけで楽しく、一日一日すごく良いもので、この桃谷高校に来てよかったと、最後になって思い、感じます。」「学校の先生にすごく感謝しています。日本語があまりわからない僕に丁寧に教えてくれました。就職も全力で手伝ってくれました。」「長い間学校から遠ざかり社会に出て働き、そして子育ても終わり、定年後やっと自分の時間を作り、目標だった桃谷高校Ⅲ部に入学できたとき、本当にうれしかったです。・・・若い先生方の中で学んだことは、生涯私の宝物です。」

卒業文集には、思い出とともに、学校に対して、また教職員に対しての感謝が書かれていました。皆さん、我々教職員は、皆さんの熱い思いに、その努力に応えることができたでしょうか。教職員の対応や態度を不満に感じたことはなかったでしょうか。言い訳のようで恐縮ですが、教職員はその都度精一杯皆さんに関わってきたと私は信じています。皆さんに社会で生き抜く力を身に付けさせるため、卒業に向けて支援するため、時には厳しく、時には優しく、教職員は接してきたのだと思います。「皆さんの頑張りを応援したい」という思いでいっぱいだったと思います。

みなさんは今日で高校という場を離れることになります。ここで、私から漫画家のやなせたかしさんの言葉を二つ紹介します。

「夢を実現することだけが人生の目的ではない。夢に向かって一歩ずつ一歩ずつ進もうとする。その力が尊いのだ。夢は追い求めているほうが幸福なのだ。チャンスは誰にでも平等にある。『どうせ、オレなんてダメだ』と言っている人は、チャンスをつかもうとしていないのではありませんか。」

みなさんには夢がありますか。大きな夢でなくてもかまいません。こんな風になりたい、あんなことをしたい。小さくてもいいんです。いくつになっても夢を持ち続けてください。そして、その夢をかなえるために、こつこつと努力を続けてください。チャンスをつかむか、夢を実現するか、すべてあなた次第です。でも、疲れたら少し休憩し、また立ち上がればいいんです。チャンスは誰にでもあるんですから。

二つめです。

「絶望のとなりに誰かがそっと腰かけた。絶望はとなりの人に聞いた。『あなたはいったい誰ですか?』となりの人は微笑んだ。『私の名前は希望です』」

「絶望」。とつてもつらいとき、悲しいときは誰にでもあります。でも、いつまでもつらく悲しい日々は続きません。つらいこと、悲しいことを乗り越えれば、明るい「希望」に満ち溢れています。明日を信じて、精一杯生きてください。

私たち教職員がみなさんを高校生として支援し導くのは、今日が最後です。でも、何かうれしいことがあって話したいとき、困ってどうしようもないときは、いつでも訪ねて来てください。ここはみなさんの母校です。

最後になりましたが、保護者の皆様、ご家族の皆様、みなさんの支えがあったからこそ、卒業生は今日の卒業を迎えられました。これまでのみなさんのご支援に敬意を表したいと思います。あわせて、これまで本校の教育活動にご協力いただきましたことに、感謝申し上げます。

さあ、卒業生のみなさん、これからは、この桃谷高校で身に付けた力を存分に発揮して、社会で大きく羽ばたいてください。

みなさんの、ご健康と今後のご活躍を祈念して式辞といたします。

令和元年九月二十七日

大阪府立桃谷高等学校

定時制の課程

多部制単位制Ⅲ部

准校長 稲垣 靖